

# グローバル通信

2017.10 vol.45

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

朝夕すっかり涼しくなり、木々も色づきはじめました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回のグローバル通信 45号では、経営学研究科にて開催された「龍谷経営サロン」の参加者の感想や本プログラムの資格である「地域公共政策士」を取得された修了生の今を掲載しております。またその他にも、政策学研究科の修士論文中間報告会の報告者の感想、科目紹介、院生夏合宿のレポート、協定先懇談会の報告など盛り沢山の内容でお届けいたします。

食欲そそる秋になりましたので、栗や秋刀魚など旬の食材を楽しみつつ毎日を楽しみお過ごし下さい。

「ふるさととは“ここ(精華町)”と誇れるまち」を築くために	1
労働と社会保障に関わるネットワークの形成に向けて	1
修士論文中間報告会感想文	2
龍谷経営サロン 受講感想文	2
院生夏季合宿・レポート	3
授業科目紹介(地域公共政策特別演習)	3
修了生の今	4
協定先懇談会報告	4
事務局インフォメーション	4



## 「ふるさととは“ここ(精華町)”と誇れるまち」を築くために

木村 要  
(精華町町長)

私は、平成15年10月から町長として、現在4期目の町政を預かっており、「命と希望を未来につなぐまちづくり」を掲げ、平成25年には、第5次総合計画の「人を育み未来をひらく学研都市精華町」の実現に向け、「ふるさととは“ここ(精華町)”と誇れるまち」を目指し、全力で取り組んでいます。

まちの今、そして将来を担ってくれる人達を育てるまちづくりを進める中においては、「科学のまちの子どもたちプロジェクト」で、将来、ノーベル賞を受賞する様な科学者を育てるきっかけづくりの取り組みや、とりわけ文化やスポーツ、食育や健康、福祉、介護、環境などの分野でも、幅広い取り組みによって素晴らしい成果を収めていただいております。

日々の職員の頑張り、住民に課題を提案するだけでなく、職員自らが汗をかき、その姿を見て住民は我々にも出来ることはやろうと立ち上がっていただき、そのことが社会的評価として取り上げられて更なる進展へとつながっています。

精華町には、素晴らしい「住民力」と「職員力」があり、それがまちの誇りだと確信している中で、さらなる発展のためにも、これからの10年間の人材育成こそ、今の精華町にとって、極めて大きな課題であります。

職員が地域の課題を把握したなかで、その地域課題を解決するために、自らが現場を大切に、考え、判断し、解決に取り組む人材が必要不可欠となっております。

このような中、龍谷大学では「NPO・地方行政研究コース」を開設され、地域社会における自立と活性化を担う人材育成に取り組まれており、精華町も平成15年度より「地域人材育成に係る相互協力に関する協定」を締結させていただいております。

大学やNPO法人、行政などが互いに連携と協力を仕合い、多様化する住民ニーズを的確に把握し、課題を共有し解決できるよう、今後も、相互に情報の交換や助言等をいただきながら、より協力関係が深まり、地域課題の解決や住民ニーズに応える取り組みが生まれることを大いに期待していますとともに、「ふるさととは“ここ(精華町)”と誇れるまち」となるよう努めてまいります。

## 労働と社会保障に関わるネットワークの形成に向けて



菅尾 達典  
(NPO法人あったかサポート常務理事・社会保険労務士)

### 相談したいけど、相談できない若者の増加

当会は2007年に結成されて以来、今日まで12年間、労働や社会保障に関心を持つ各種専門家で構成される市民団体として①教育活動、②情報発信活動、③相談活動、④ネットワーク活動を展開しています。ところが近年では、貧困と格差が進行し、社会的孤立が深まり、貧困世帯ほど情報アクセスに乏しいがために悩み事や困り事を一人で抱えてしまいがちです。行政機関の活用など社会的な解決方法を知らない、取れない傾向にあります。また近年の若者は、他人に「教えて」「助けて」と言えない方が増えています。その上、誰か専門家に「相談したいけれど、周りの人には知られたくない」と思っている方が増えています。

### 相談ネットワーク活動の拡大と若者に対する労働関連法教育活動

当会では、「仕事や暮らし」に係る困りごと相談や問題解決に結びつけるお手伝いをしています。幸い当会は、弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士、キャリアコンサルタント、臨床心理士、社会福祉士、保育士など専門士業の方々。医師、研究者、ジャーナリスト。中小企業経営者や労働組合役員など様々な職業を持つ市民によって構成されています。そのネットワークを通して、様々な相談に対応しています。

また高校生や大学生、社会人を対象に労働関連法教育活動を行っています。「ブラック企業とは何か」など「働くことと人権」に関わる「出前授業」を通して、若者の早期離職など若者が雇用に踏み込まないためのお手伝いをしています。他方で労働相談や教育活動を進めるためには、日々自らの「質問力」を養い、実践的な労働や社会保障についての知識を提供し、社会的に役立てることでなければなりません。

### 龍谷大学法学研究科に学ぶ社会保険労務士の社会的使命

幸いにも2011年に当会と「龍谷大学NPO地方行政研究コース」との間で協定を結ぶ機会に恵まれました。それ以降、今日の「地域公共人材総合研究プログラム」に至るまで、当法人に所属する社会保険労務士が毎年、法学研究科に学んでいます。それだけに当会としては、長時間労働や様々なハラスメントなど労働条件や雇用環境などに対し、若者が自ら「雇用に関するリスク管理」を強めるためのお手伝いをしたいと思っています。一方で小規模事業経営者や労働組合に対しては、労働・社会保険を含む労働関係諸法規のコンプライアンス(法令順守)の推進に向けた情報の提供に努めたいと思います。そのためにも引き続き龍谷大学との間で具体的な連携が取れることを切に願っています。

## 伊藤 圭之 (法学研究科修士課程 1年)

民間IT企業で数年間勤務した後、市職員に職を転じ、日々の公務に携わる中で、職員に十分な情報技術に関する理解や知識が不足するために、非効率的な公務運営がなされている等、行政機関における情報技術の利活用に問題意識を持つようになりました。そこで地方自治体における一般技術職としての「情報専門職」の創設を目指し、そのための基礎的な研究をしようと本コースに入学させていただきました。当初研究テーマについては、「行政における専門性の担保の研究」というテーマを設定しました。

7月に実施した修士論文中間報告会においては、指導教員の先生他公法系の先生方にお集まりいただき、構想を報告させていただきましたが、今の段階では「研究」ではなく、「調査報告」レベルであるというご指摘をいただき、普段行っている「仕事」的な調査と「研究」の違いについて考える機会となりました。また、法律学専攻の中で、どちらかという行政学的、経営学的な観点からの研究ということで、議論も起こりましたが、指導教員の先生から、「せっかくの自分のやりたいテーマなので、テーマは大事にしつつ研究手法について検討しましょう」と激励いただき感激しました。

## ➤ 修士論文中間報告会感想文 ◀

### 澤井 優太 (政策学研究科修士課程 1年)

私は大学院に入学後、修士論文というものに漠然なイメージしか抱くことができていなかったのですが、今回修士論文中間報告会に参加させていただき、学部から進学された院生の方はゼミでの研究テーマを個人レベルに落とし込んだものや自分の関心事をテーマに設定されたものであったり、社会人院生の方は自身の仕事内容に絡めた問題意識をテーマに設定されていたりと、非常に幅広い分野でのテーマ設定が多く見られ、修士論文は卒業論文とは異なり、より深い視点で問題意識を持ち、テーマを設定しなければいけないなどという印象を受けました。また、各院生の方々の報告に対する先生方からの的確な指摘もあり、この中間報告会は夏期長期休暇前に自分の研究の見つめ直しができるという点で有意義な時間であるように感じました。

私自身修士課程の1年生として今後修士論文のテーマを考えていく際に、社会課題のこういった点に問題があるのか、特に、自分は何に問題意識を持っているのかという視点を忘れずに、改めて後期からの勉強に取り組んでいかなければいけないなど、報告会を通じて非常に勉強になりました。

## 龍谷経営サロン 受講感想文



### 2017年度講演内容

・「龍谷大学大学院経営学研究科での研究・教育を振り返って」

夏目 啓二 氏 (龍谷大学名誉教授)

・「社会人になった二年間」

郭 靖琪 氏  
(株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ)

### 参加者の感想 劉 心迪 (経営学研究科修士課程 1年)

龍谷経営サロンでは、本学名誉教授の夏目啓二先生と修了生の郭靖琪さんが講演されました。はじめの講演では、夏目先生が今までの研究や教育を振り返る話をされました。特に論文の書き方について、ご自身の経験と大学院での学生指導を踏まえてお話しくださり、大変勉強になりました。次に、社会人三年目の郭靖琪さんは、現在の職務の概要とそこでの仕事の様子を紹介されました。また、後輩の私たちに向けて、自分の経験を踏まえて、社会人になるための大学院での過ごし方についてもお話しくださいました。先輩の郭さんの話を聞き終えて、残り一年半の大学生活をどうやって有意義に過ごせばよいのかをもう一度考えました。留学生として日本語だけではなく、英語やコミュニケーション能力をはじめとしたビジネススキルも磨くことが必要だと思いました。

また、懇談会では、普段交流機会が少ない同級生たちと話し合い、教授や先輩たちにも様々なアドバイスをいただきました。親交を深めることができ、貴重な時間でした。

今回の経営サロンを通じて、先生や先輩の偉大さを感じると共に、もっと自分も努力しなくてはならないと改めて認識しました。次回参加する際には、自ら学ぶだけでなく、他の方々との考えや情報交換に励むことができるように頑張りたいと思います。

# 院生夏季合宿・レポート



## 合宿主催者より一言

**田中 博之**（政策学研究科修士課程 1 年）

今年の秋合宿は 9 月 9 日～ 10 日、奈良市の東部地域で行いました。主な内容は①田原地区のまちづくり協議会の取り組み②前地域おこし協力隊黒田氏の柳生地区における着地型観光の取り組み③月ヶ瀬地区の平成の合併の経緯と現在の課題④近隣の伊賀市上野南部住民自治協議会小丸氏による地域自治組織の設立趣旨と活動などでした。中山間地の地域自治に特化した内容でしたが、院生の研究において何かヒントになるものがあれば幸いです。参加者 15 名が主体的に参加し、非常に有意義な時間を過ごせたと感じています。

## 参加レポート

**内田 香奈**（政策学研究科修士課程 1 年）

今年の院生合宿は、奈良市東部地域を訪れ、4 つの地域のまちづくり協議会や元地域おこし協力隊のみなさんから、各地域での取り組みをうかがいました。

人口減少の事実を、日常生活での実感として感じ、それぞれが「住み続けられる地域であるように」という思いで取り組みを行っていました。そのために知恵はもちろん、資金も出し合いながらの取り組みは、「昔ながらの」というよりも、地域や公益のためのコストを誰が担うのかという現在の視点を含むものともいえ、学ぶところの多い合宿となりました。

## 授業科目紹介（地域公共政策特別演習）

### 「地域公共政策特別演習」を受講しての感想

**栗本知子**（政策学研究科修士課程 1 年）

この特別演習では、普段は交流することのない、経営学研究科のみなさんと一緒にできるところが、他にはない面白みです。

修士論文に取り上げるテーマの違いも新鮮ですが、研究科が違う方と一緒に議論できることで、お互いの研究テーマに対して思いがけない質問が出ることが、刺激になっていると思います。

また社会人大学院生には、企業で働いてこられた方やご自身が店舗を経営されている方がおられますし、留学生の方も参加されていて、体験談を交えた感想を聞かせることも興味深いです。

私の研究テーマである西淀川公害は過去に起きたことですが、その経験から、「今」に活かせる学びをどうつくるのかを考えている私にとっては、様々な意見を得る貴重な機会になっています。



石田 浩基 (2012年度 修士課程NPO・地方行政研究コース修了) 京都文教大学勤務



「地域公共政策士」。私の大学院生活や進路に大きな影響を与えた資格です。当時、政策学研究科の院生だった私は、チームで地域に政策提言を行う「キャップストーンプログラム」に心惹かれ、この資格を知り、取得に至りました。その中で得た、社会制度だけでなく人々のマインドを変えていく必要があるという学びは、今も自身の心に色濃く刻まれています。その後、(一財)地域公共人材開発機構に入職し、資格を世に広げる仕事に携わりました。今年4月からは京都文教大学へ職場を変え、また違った立場から人材育成に関わっています。資格取得から5年が経ちますが、資格を切り口にご縁をいただく等、仕事の幅を広げることができていると感じます。

## 協定先懇談会報告

2017年7月19日(水) 龍谷大学深草学舎において、協定先33団体の参加を得て、「協定先懇談会」を開催いたしました。懇談会では、龍谷大学大学院における「教育理念・目的」及び「3つの方針」や地域公共人材総合研究プログラムの概要、各研究科コースの特徴、推薦入学試験についての説明を行いました。その後の意見交換会では、地域公共人材総合研究プログラムでの学びのあり方や、推薦入試制度の活用、地域公共政策士資格の取得について、協定先団体の担当者様からご意見をいただき、実りある懇談会となりました。



### 事務局インフォメーション

#### ●連携協定推薦入試

○法学研究科・政策学研究科・経営学研究科 (10月出願・11月試験)

本選考	出願期間(消印有効)	2017年10月30日(月)~11月6日(月)
	試験日	2017年11月25日(土)
	合格発表	2017年12月12日(火)

○経営学研究科 (1月出願・2月試験)

本選考	出願期間(消印有効)	2018年1月9日(火)~1月26日(金)
	試験日	2018年2月17日(土)
	合格発表	2018年2月24日(土)

地域公共人材総合研究プログラム ニュースター「グローバル通信」通巻45号 2017年10月

発行/龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム  
連絡先/政策学部教務課  
TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

H P / [http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集/原雄貴、宮田澤、運動  
編集補助/河野英治、野村知未、片桐理美  
監修/グローバル通信編集委員会  
印刷/株式会社 田中プリント